

# 中国地方出土の和同開珎

青島 啓

## I はじめに

ここでは、中国地方の和同開珎出土状況について報告する。対象となる中国地方とは、現在の県名で鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県の5県である。

今回集成できたのは、24例で、総数は134枚以上である。出土枚数が確定していないのは、出土枚数が何枚以上としかわからない遺跡があることや、出土枚数が不明なものは便宜上1枚として数えていることによる。このうち、発掘調査によって出土したものは11地点88枚で、不時発見や出土状況の不明なものなどが13例45枚以上ある。ほとんどが銅銭で、銀銭は島根県から出土した1枚にとどまる。

また、中世の遺構などから出土したものが2例、神社に奉納されて現在まで伝世したものが1例ある。

## II 分布傾向について

### 1. 旧国別の出土状況

はじめに、旧国別に出土状況をみってみる。中国地方は、旧国では、因幡・伯耆（鳥取県）、出雲・石見・隠岐（島根県）、美作・備前・備中（岡山県）、備後・安芸（広島県）、周防・長門（山口県）の12国である。このうち、和同開珎が出土しているのは、伯耆・出雲・備前・備中・備後・安芸・周防・長門の8国である。

出土地点・出土枚数が多いのは、備前の9例42枚以上、備中の4例52枚以上で、周防の3例15枚、長門の2例13枚がこれに続く。あとは、安芸の2例4枚以上、出雲の2例3枚、伯耆の1例3枚、備後の1例1枚と、その数は僅少となる。これをみると地域的な偏りは顕著で、備前と備中の2国を合わせた13例94枚以上は、中国地方の出土例の約半数、出土枚数の7割を占めている。

1地点からの出土枚数が多いのは、備中の大飛島州の南遺跡で45枚、ついで備前の岡山市内寺跡で30枚以上である。備前と備中の枚数が多いのは、この遺跡に引きずられているところもある。その他、10枚以上出土しているのは、周防の濡田廃寺跡と長門の長門鑄銭址で、それぞれ12枚出土している。

### 2. 出土地の性格別出土状況

中世に属するものと伝世品を除く21例のうち、出土地の性格が明らかなものは14例で、「官」「集落」「社寺」「古墓」「経塚」「祭祀」から出土している。残りの7例は「その他（不時発見や

詳細不明など)」で、なかには具体的な出土地が不明なものもある。

遺跡種別に出土例数をみてみると、「その他」が7例で一番多く、「集落」の5例、「古墓」の3例と続く。「官衙」からの出土は2例と少ない(図2)。出土枚数をみてみると、「寺社」が42枚で半数近くを占め、「集落」の15枚、「官衙」からの14枚と続く(図3)。以下、遺跡種別にみていく。

「官衙」からは、出雲国庁跡と長門鑄銭社の2例14枚が出土している。出雲国庁跡からは、中国地方で唯一見つかった銀銭が出土しており、比較的早い段階に官人によってもたらされたものと考えられている(西尾2000)。

「集落」からの出土は、伯耆の西山ノ後遺跡、出雲の三田谷Ⅰ遺跡、備前の馬屋遺跡、備中の津寺遺跡、備後の草戸千軒町遺跡の5例15枚を数える。ただし、西山ノ後遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、津寺遺跡、馬屋遺跡は、「官」に関係のある遺跡である可能性が高い、もしくはその隣接地にあたる遺跡で、純粋に集落遺跡からの出土例となると草戸千軒町遺跡からの1例となる。

「寺社」からは、2例42枚以上が出土している。1例は備前の岡山市内寺跡であるが、具体的な所在地は不明とされる。火葬墓の可能性もあるが、遺跡名から社寺出土にしている。もう1例は周防の濡田廃寺跡から出土したもので、廃寺出土例はこの1例のみである。

「古墓」からは、3例4枚以上が出土している。このうち、備前の円光寺東山蔵骨器と備中の下道罔勝罔衣母夫人墓隣接地の2例は火葬墓であるが、前者は江戸時代に出土したもの、後者は言い伝えが伝わっているだけのもので詳細はわからない。残りの1例は、防人的な官人を含む集団墓である長門の見島ジーコンボ古墳群から出土している。

「経塚」は、1例1枚以上が備前の西大寺の上寺から出土している。しかし、これは戦前に経塚とみられるところから出土したということだけしかわかっていない。

「祭祀」遺跡は、備中の大飛島州の南遺跡の1例のみ確認され、ここから45枚もの和同開珎が出土している。この遺跡は、奈良・平安時代の瀬戸内航路上の国家的祭祀の場であったといわれ、ガラス器や唐銅鏡など多種多量の出土品がある。

「その他」には、出土状況に不明な点の多い備前の中島竜王山・東兎町山地・岡山市高島古社叢、備中の倉敷市水島、安芸の大字亀の首・竜王山や、表面採集品である周防の高尾古墳群内採集品がある。中島竜王山は山陽道に隣接してその目印的な役割を果たしている山で、安芸の竜王山は安芸国分寺の北側にそびえる山である。東兎町山地、倉敷市水島、大字亀の首は、瀬戸内海の交通の要所となる港の想定地やその付近としてとらえることができる。また、高尾古墳群採集品は、古墳が築かれる丘陵の麓崖面から出土しており、古墳への副葬品であった可能性があるものの、この古墳群は6世紀代の円墳群と考えられており、古代に下る墳墓は確認されていない。近年隣接地で行われた発掘調査において、墨書土器や転用硯、緑釉陶器などが出土しており、古代において一般的な農村集落でない遺跡があったものと考えられる。

なお、伝世品として、周防一宮の玉祖神社に、弘化2年(1845)に奉納された和同開珎がある。玉祖神社は、創建年代は定かではないが、天平10年(738)の『周防国正税帳』にはその名がみえる古社で、「玉祖郷」の中心的な建物であったことが想像される。「玉祖郷」は、山陽道沿いにあ

り、大前駅家が置かれていた。玉祖神社周辺からは、銅製の帯飾りや瓦などが出土している(杉原 2002)。

### 3. 分布傾向について

地域的な傾向をみると、備前と備中からの出土が多い。より畿内に近いという地域的な特性であろうか。ついで多いのは長門や周防で、和同開珎を鑄銭した長門鑄銭址が置かれたことが、その原因のひとつと考えられる。ただし、出土枚数の少ない状況での傾向であることには注意しておく必要がある。

遺跡の性格別にみても、官衙遺跡に集中する傾向はみられないものの、その隣接地や周辺遺跡、官人層の墓や国家的祭祀遺跡など「官」と関わりが考えられる遺跡となるとその数は増える傾向にある。また、山陽道沿いや瀬戸内海に面した場所での出土もみられる。

備前と備中の皇朝十二銭の出土分布傾向について、「山陽道沿いに分布して、官衙・官人と関連づけうる一群と、瀬戸内の海上交通路との関係で理解できる一群」があることがすでに指摘されている(乗岡 2000)が、中国地方の和同開珎についても同様の傾向が指摘できそうである。

## Ⅲ 出土状況

発掘調査において遺構からの出土が確認された例は少なく、胞衣埋納遺構からの出土例が3例で一番多い。以下、寺社と火葬墓から2例、積石塚、経塚、祭祀、小川が1例となる。掘立柱建物からの出土は確認できなかった。出土銭の性格については、小川から出土したものを除き、供献銭・副葬銭であると考えられる。遺構の時期は、多くが奈良時代(8世紀)で、9世紀の例が少数みられる。以下、古代の遺構からの出土状況について伝聞も含めてみていく。なお、中世における出土例は、中世水田に伴って出土したものと、北宋銭10枚に混じって見つかったもの(発掘調査での出土ではない)の2例である。

### 胞衣埋納遺構

西山ノ後遺跡は、会見郡衙と推定される長者屋敷遺跡から北に約1km離れた位置に広がる遺跡で、奈良時代の掘立柱建物4棟と柱穴多数が検出されている。胞衣埋納遺構は、掘立柱建物を構成する柱穴のそばで確認され、皿状に浅くくぼんだ坑に土師器の甕が埋設されていた。検出時には既に甕の口縁部は欠損していた。甕の内部から、和同開珎3枚、鉄刀子1本、鋤先片2本、墨挺の可能性のある墨状炭化物1個体が出土している。墨状炭化物が墨挺であるとすれば、貴紳、官人層等の有力な層の習俗と考えられることから、地方官人が居住していた可能性が高くなる。遺跡が立地する台地の南側には、郡衙跡と推定される長者屋敷遺跡や石製鴟尾をもつ大寺廃寺が見つかっており、これらに関わりのある官人であったことが推測される。時期は、奈良時代に比定されている(米子市教育委員会 1982)。

馬屋遺跡は、山陽道高月駅想定地に隣接する遺跡で、奈良時代の掘立柱建物や井戸、溝が検出され、陶硯・貿易陶磁器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器などが出土している。胞衣埋納遺構は、

掘立柱建物から3～4m離れたところで検出され、直径約20cmの不正円形の土坑に、隙間がない状態で蓋をした須恵器杯身が埋納されていた。杯身内の土壌を脂肪酸分析し、人間の胞衣の可能性が高いとの結果が出ている。和同開珎は杯身の下から、中央に1枚、四方に4枚、サイコロの目状に配置された状態で出土した。原型をほとんど留めない1枚を除いて銭文はすべて上を向いていた。遺構の時期は、奈良時代前半に比定されている。

津寺遺跡は、山陽道津峴駅想定地から北東に約1km離れた位置に広がる遺跡で、一辺約100mの方形区画内に並んだ掘立柱建物群を中心に北西に護岸施設が、東方に掘立柱建物を確認された。遺物は、帯金具や陶硯、二彩陶器、瓦など官衙を物語るものが土師器や須恵器などとも出土している。胞衣埋納遺構は、方形区画外の掘立柱建物の柱穴に隣接して径約40cm、深さ約35cmの窪みが掘られ、そこに須恵器蓋をした土師器甕が埋設されていた。和同開珎は、土師器甕の底部内面中央部から5枚、銭文を上に向けた状態で見つかっている。遺構の時期は、奈良時代前半に比定されている。

#### 寺社

岡山市内寺跡からの出土状況については、須恵器の壺の中から「舍利」とみられる白色河原石とともに和同開珎が30枚以上出土したといわれるが、具体的な出土地を含め詳細は不明。濡田廃寺跡は、標高約30～40mの台地上に立地する遺跡で、創建は白風時代と考えられている。和同開珎は、1901年(明治34)ころ、耕地整理中に、素焼の壺8個に納められた状態で見つかった。素焼の壺には、和同開珎のほかに、多角形有孔銅銭100余枚、多角形無孔無文銅銭10余枚、四角形無文銅銭200余枚、円形有孔土銭17枚などが出土している。なお、1990、91年に行われた発掘調査では、金堂と考えられる礎石建物1棟、溝状遺構、土坑などが検出され、多量の瓦と須恵器、土師器、陶磁器などが出土している。

#### 火葬墓

円光寺東山蔵骨器と下道罔勝罔衣母夫人墓からの2例があるが詳細はわからない。前者は、瓶形の身と宝珠つまみのついた蓋による須恵器の蔵骨器に和同開珎が伴ったと伝えられる。後者は、銅製蔵骨器に古和同が1枚伴ったとされる(山中 1915)が、実際は一帯に広がる別の火葬墓からの出土との指摘がある(梅原 1917)。

#### 積石塚

見島ジーコンボ古墳群は、萩市より約45km離れた日本海上に浮かぶ孤島の見島に、7世紀後半から10世紀にかけて築かれた約200基の積石塚からなる群集墳である。武器や装身具のほか、銅銃や銅帯金具なども出土し、官人の墓を含む防人のような辺境に配備された人々の集団墓と考えられる。和同開珎は、151号墳付近の浜堤から出土したもので、検出状況から盗掘された151号墳の副葬品と考えられる。このほか、島内から1枚出土している。

#### 経塚

西大寺の上寺で、経塚に伴って出土したと伝えられるが詳細は不明。

#### 祭祀

大飛島州の南遺跡は、笠岡港から南に約25km離れた瀬戸内海上に浮かぶ大飛島にある遺跡で、



海浜砂洲のつけね部分から多量の遺物が出土した。航海の安全を祈願した場であると考えられている。出土遺物をみても、和同開珎をはじめとする古代銭のほかに、貿易陶磁器、奈良三彩、緑釉陶器、須恵器、ガラス器、唐銅鏡、銅玲、石帯・帯金具、玉類などがあり、なかには全国的にみても貴重な資料があることから、国家的な祭祀の場であった可能性がある。

その他

三田谷 I 遺跡は、遺跡名のとおり谷の遺跡で、帯金具や緑釉陶器、墨書土器、木筒、硯などが出土している。出土遺物から、この周辺に公的施設の存在した可能性が指摘されている(鳥谷 2000)。和同開珎は、9 世紀代の小川跡より出土している

#### IV おわりに

以上、中国地方の和同開珎についてみてきた。分布の傾向としては、「官」に関わりのある遺跡とその周辺の遺跡、山陽道・山陰道沿いや瀬戸内を臨むような遺跡・地点で出土する傾向がみられた。想像をたくましくすれば、官衙・宮人への普及があり、山陽道・山陰道や瀬戸内海航路を媒介として周辺に普及していった様子が浮かんでこよう。しかし、集成例は決して多くないことから、今後の資料でこの傾向が変わる可能性は大いにある。したがって、普及の程度を検討するのは現段階では難しい。

出土状況についても、発掘調査で明らかになった例は少ない。遺構に伴って出土した銭貨の性格は、大きくまとめれば、袍衣埋納遺構や火葬墓、祭祀にかかわる遺構などへの供献、副葬といったものが多いといえよう。しかし、袍衣埋納遺構の 3 例でも、袍衣容器や副葬品の組み合わせ、銭貨の埋納される場所、その枚数など細かな違いが多々あり、ひとくくりにしてよいものか疑問も残る。

最後に、和同開珎の出土状況について、財団法人米子市教育文化事業団佐伯純也氏、島根県教育委員会目次謙一氏、岡山市教育委員会乗岡実氏、東広島市教育委員会中山学氏、防府市教育委員会杉原和恵氏、下関市教育委員会濱崎真二氏に情報の提供をいただきました。心より感謝申し上げます。

#### 〔参考・引用文献〕

- 飯田 米秋 1990 『賀茂郡市』富士本訓司
- 梅原 末治 1917 「備中国小田群に於ける下道氏の墳墓」『考古学雑誌』第 7 卷 5 号 日本考古学会
- 岡山県古代吉備文化財センター 1995 『松尾古墳群 斎富古墳群 馬屋遺跡他』岡山県教育委員会
- 岡山県古代吉備文化財センター 1997 『津寺遺跡』4  
日本道路公団中国支社岡山工事事務所・岡山県教育委員会
- 古賀 信幸 2000 「山陽道」『畿内・七道からみた古代銭貨』出土銭貨研究会
- 下間寅之助 1918 「異品銭之紹介(其 15)」『古銭』第 2 卷第 7 号 古銭雑誌社
- 杉原 和恵 2002 「周防一宮玉祖神社所蔵の考古資料」『山口考古』第 22 号 山口考古学会

- 帝室博物館 1937 『天平地寶』
- 鳥谷 芳雄 2000 『斐伊川放水路事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—三田谷 I』Ⅲ 田島根県教育委員会
- 永井久美男 1996 『日本出土銭総覧』兵庫県埋蔵銭調査会
- 西尾 克己 2000 「山陰道」『畿内・七道からみた古代銭貨』出土銭貨研究会
- 西尾 克己 2004 「山陰の皇朝十二銭」『山陰の出土銭貨』出土銭貨研究会
- 乗岡 実 2000 「備前国」『畿内・七道からみた古代銭貨』出土銭貨研究会
- 乗岡 実 2000 「備中国」『畿内・七道からみた古代銭貨』出土銭貨研究会
- 乗安和二三 1983 『見島ジーコンポ古墳群』山口県教育委員会
- 原 三正 1978 『日本古代貨幣史の研究』ボナンザ
- 弘津 史文 1935 「和同開珍並に伴出遺物に就て」『考古学雑誌』第12巻2号 日本考古学会
- 福山市教育委員会・福山市文化財保護委員会 1966 『草戸千軒町遺跡』遺物編
- 山口県教育委員会 1964 『見島総合学術調査報告書』
- 山中 笑 1915 「本邦最初の泉貨について」『考古学雑誌』第5巻第5号 日本考古学会
- 米子市教育委員会 1982 『諏訪遺跡群発掘調査報告書』Ⅲ
- 渡辺 一雄 1991 『濡田廃寺跡 I』山口県教育委員会

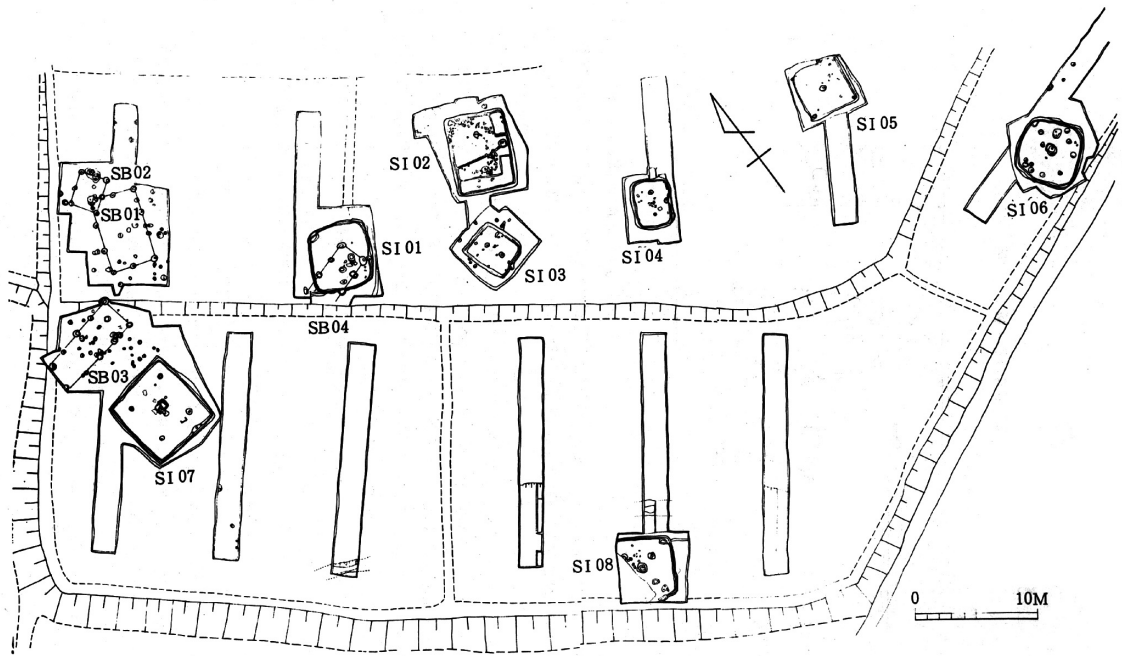


图4 西山ノ後遺跡遺構配置図

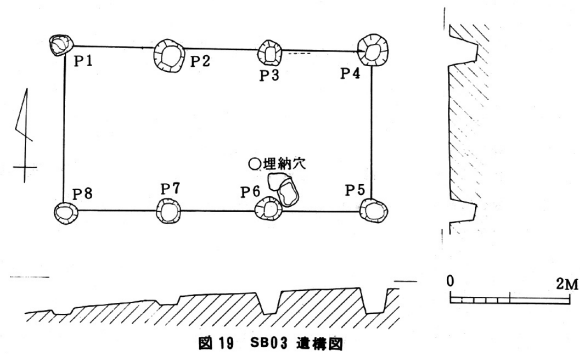


图19 SB03 遺構図

图5 SB3・胞衣埋納遺構実測図

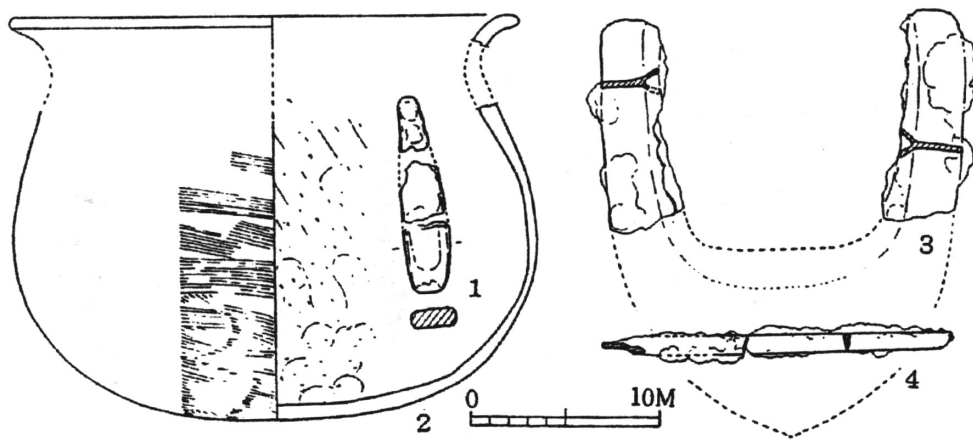
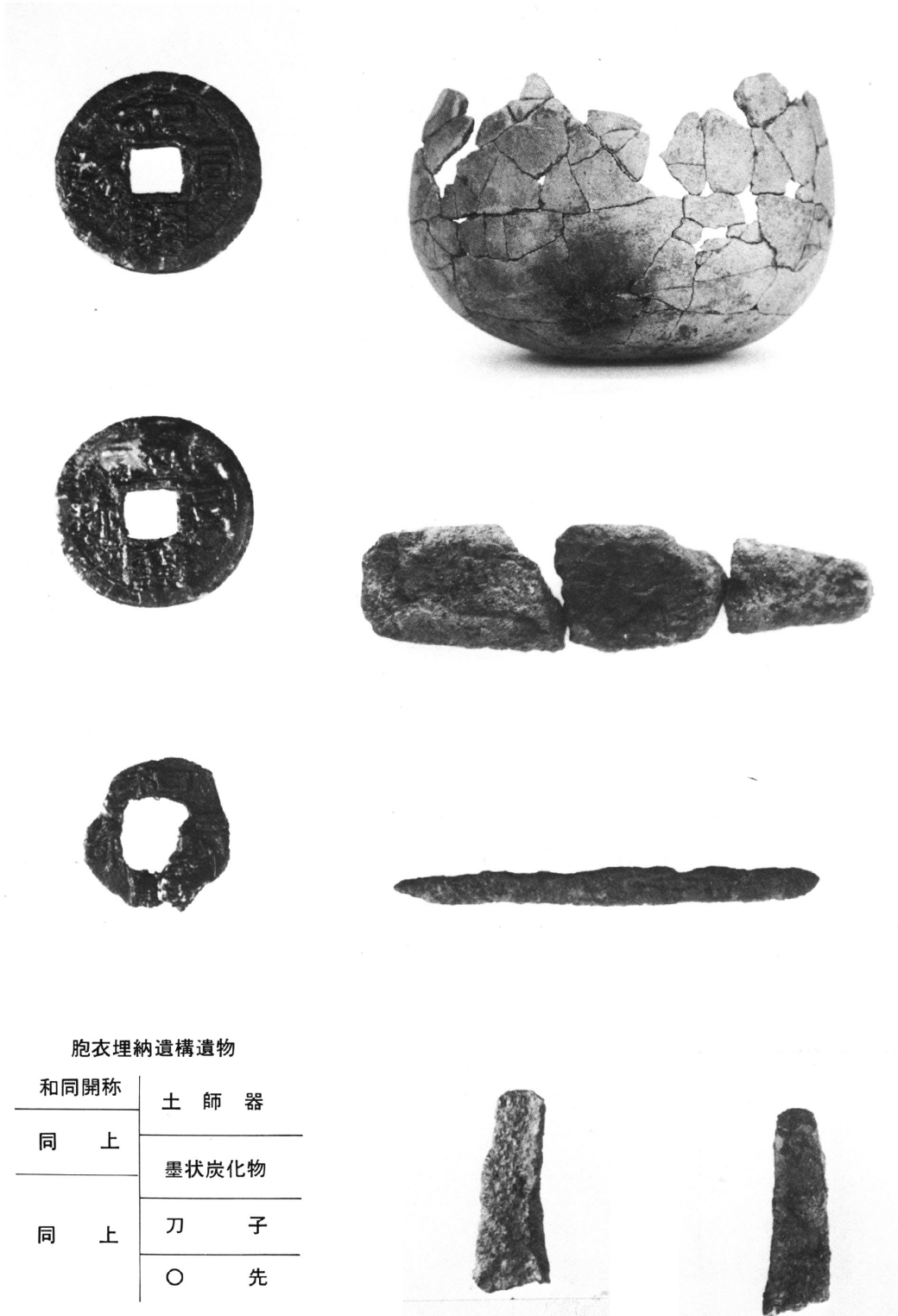


图6 胞衣埋納遺構出土遺物実測図



胞衣埋納遺構遺物

和同開称	土 師 器
同 上	墨状炭化物
同 上	刀 子
	〇 先

图 7 胞衣埋納遺構出土遺物



图 8 馬屋遺跡遺構配置图

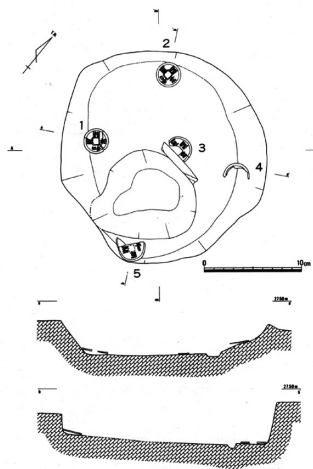
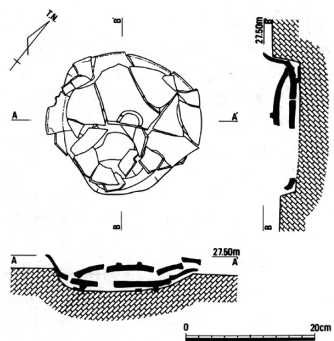


图 9 胞衣埋納遺構実測图

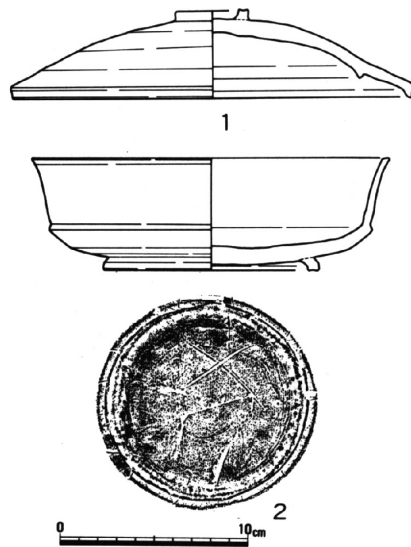
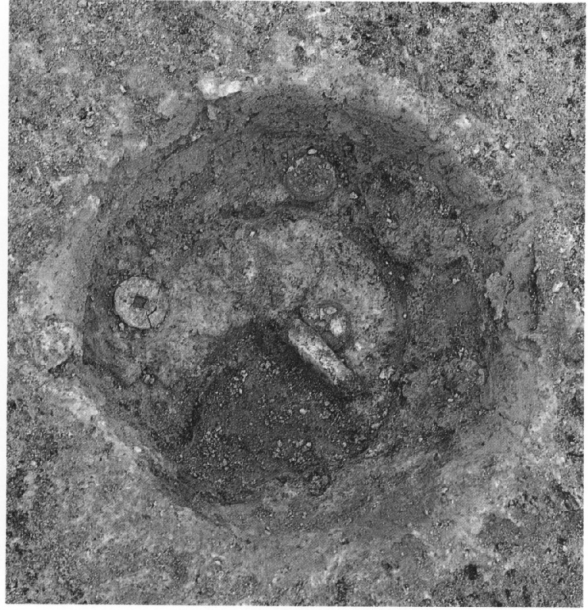


图 10 胞衣埋納遺構出土遺物実測图



1. 検出状況



2. 和同開寶出土状況



3. 埋納土器

4. 和同開寶

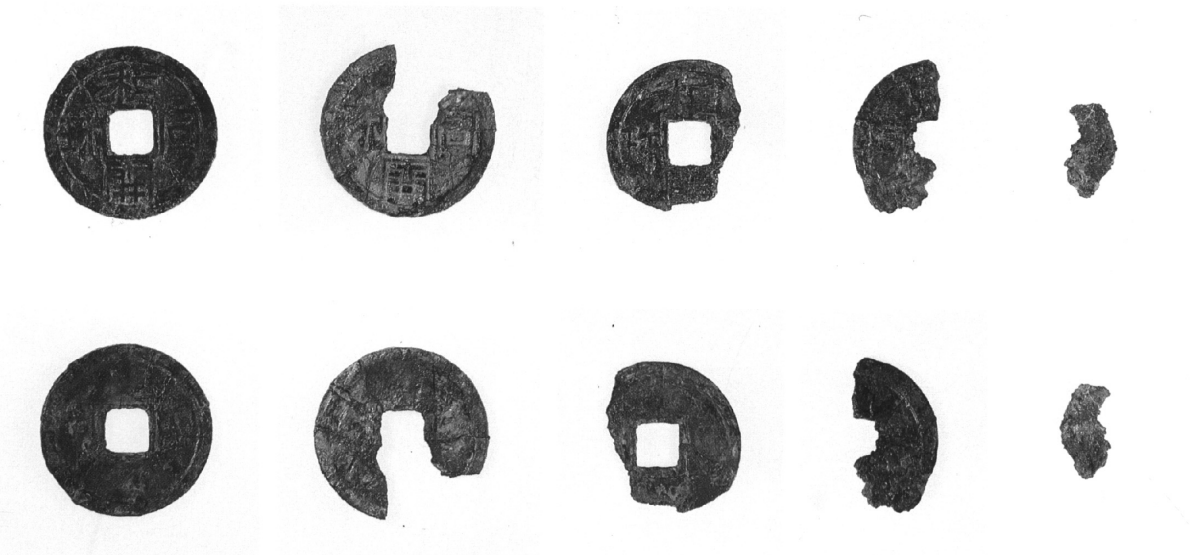


図11 胞衣埋納遺構検出状況・出土遺物

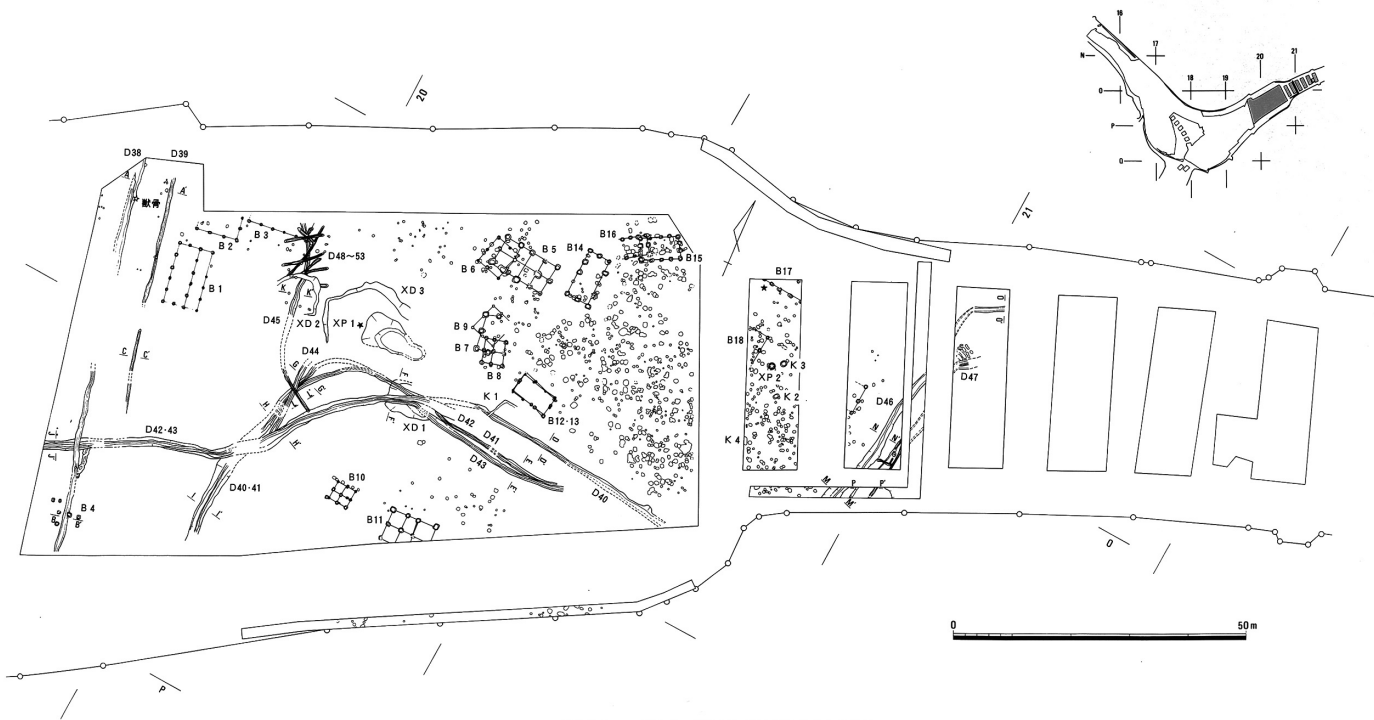


图12 津寺遺跡遺構配置图

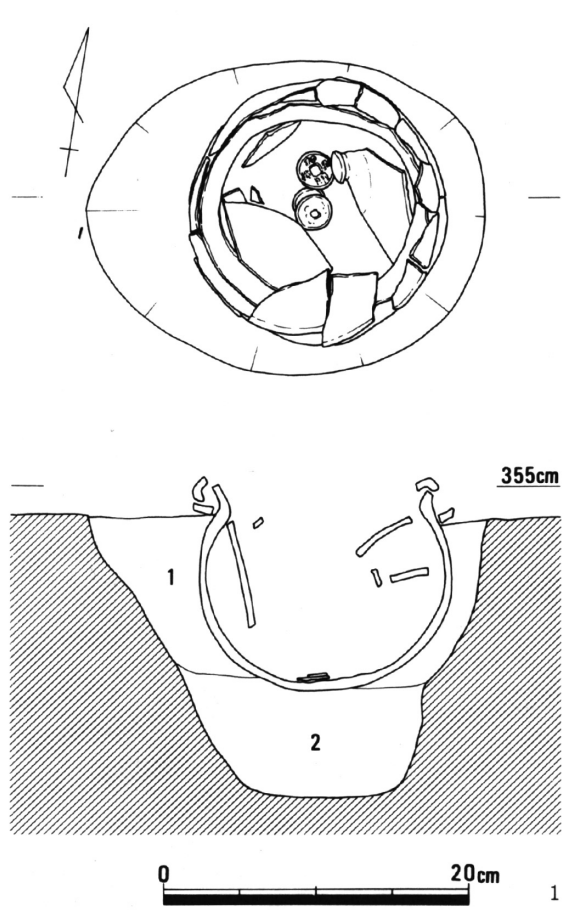


图13 胞衣埋納遺構実測图

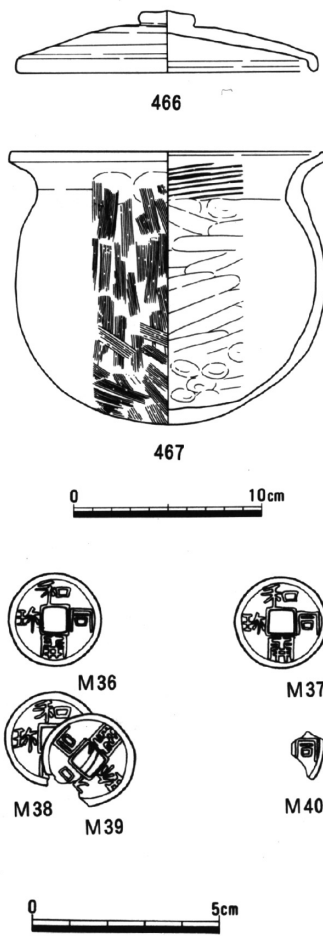
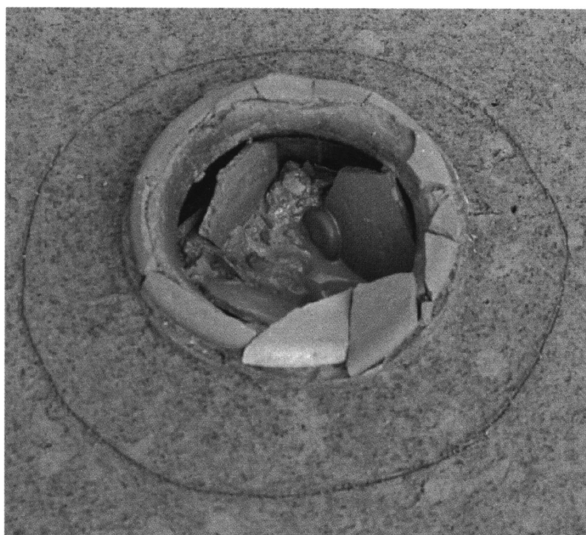


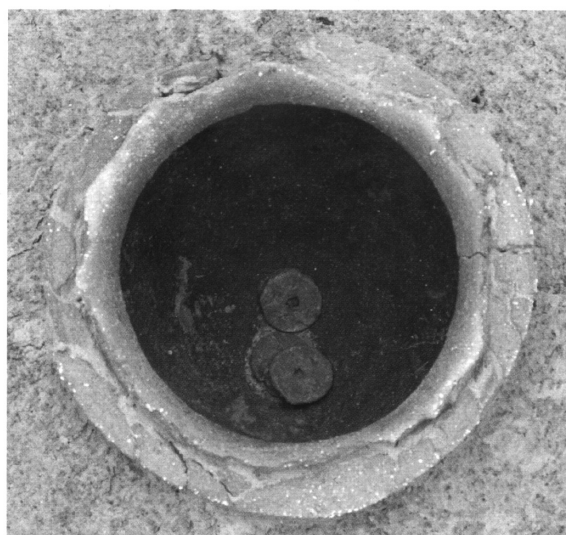
图14 出土遺物実測图

1 茶褐色粘砂  
2 茶灰色粘質土





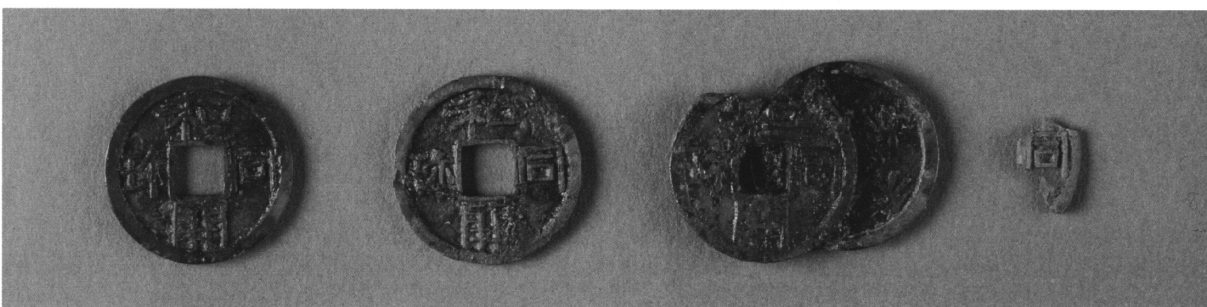
1 検出状況



2 銅銭出土状況



3 出土遺物



4 出土銅銭

図15 胞衣埋納遺構検出状況・出土遺物



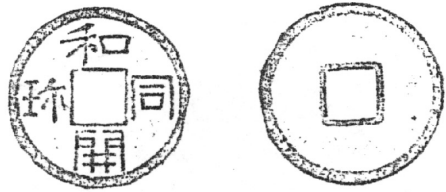


図16 伯耆・三田谷 I 遺跡



図18 安芸 竜王山銅銭平

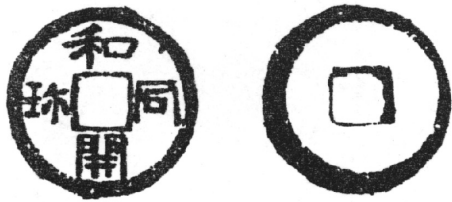
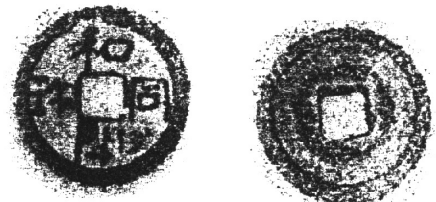


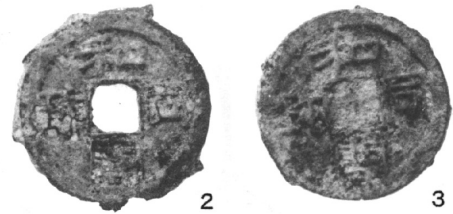
図17 出雲・出雲国庁跡



1



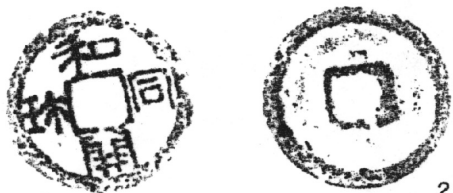
1



2

3

図19 安芸・大字亀の首



2

図20 周防・高尾山古墳群